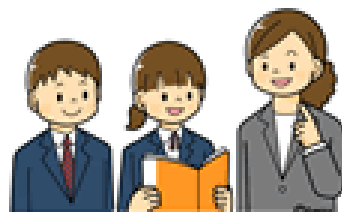


4月17日に本校3年生95名を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。本調査は、国語・数学に加え、今年度は理科も実施されました。それと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えいたします。

総合結果（国語・数学・理科）

今年度、国語A（主として知識）・国語B（主として活用）、数学A（主として知識）・数学B（主として活用）、理科が実施されました。3教科とも全国平均をやや下回る結果となりましたが、領域や設問によっては全国平均を上回るものも見られます。国語Bでは「書くこと」全国平均を上回る正答率を示しています。反対に苦手とする領域は国語Aの「読むこと・書くこと」、数学Aの「資料の活用」となっています。



また、無回答率が全国平均と近似値になっており、あきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢が身についていることが挙げられます。

今後も引き続き、基礎・基本的な知識の定着をはかりながら、グループ学習などを通じて情報・資料をよく読み、自分の考えや意見をまとめ、発表できる能力を付けていきたいと考えます。

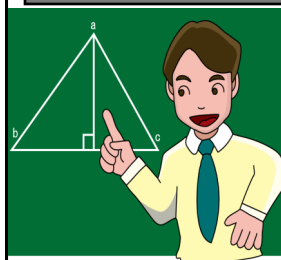
国語科より



全体として全国平均正答率を5ポイント下回っています。特に国語A(知識理解技能)では「話すこと・聞くこと」の観点においては、8.3ポイントの落ち込みがありました。しかし、国語B(話すこと・聞くこと)では「書くこと」においては1ポイント、全国平均を上回りました。特に、目的に応じて文章を読み内容を整理して書くことや相手に的確に伝えるように、あらすじを捉えて書く力が備わってきていると言えます。

このような点から引き続き語彙力を増やすための課題を継続することで、「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の向上にもつなげていきたいと思っています。「話す・聞く能力」については、様々な単元の中で最終的な学習課題を「話す・聞く」に意図的に設定することも考えていきたいと思っています。また、日頃の学習の中で、メモの取り方、話の聞き方、話し方を意識させることによって力を育成していきます。

数学科より



全体として正答率は数学Aでは、全市・全国平均と類似した結果となりました。関数の単元は苦手とする生徒が多い中で全国平均を上回り、コツコツと理解し、関数に慣れた成果を感じました。

しかし数学Bでは、ほとんどの単元で若干下回る結果となりました。中でも図形の単元は全国平均を大きく下回り、空間把握や思考力を問う問題の正答数が優れませんでした。生徒質問用紙では、「数学ができるようになりたい」など、数学の学習に対する意欲は全国平均より高いのですが、その知識を生活の中での活用するなど数学の必要性を結び付けられていない生徒が多いという結果でした。今後は計算力だけでなく応用や活用の仕方についても重点的に指導していきたいと思っています。

理科より



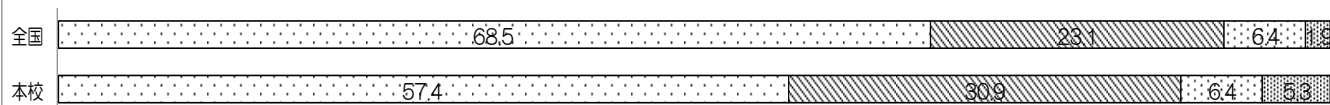
全体として、全国平均正答率を3ポイント下回る結果となりました。特に、記述式の問題に関しては、全国、京都府から5ポイント下回る結果となっているため、思考・表現の部分に苦手意識が強いと考えられます。また、分野としても、「化学的領域」「地学的領域」において、苦手意識を持っていると考えられます。

生徒質問紙に関しては、「理科の勉強は好きですか」という問いに対して、半数以上が「どちらかと言えば当てはまらない」以下を選択しています。「理科の勉強は大切だと思いますか」に対しては、70%近くが「どちらかと言えば、当てはまる」以上を選択しています。このような結果から、大切だと感じているが、授業の内容になかなか興味をもてていない生徒がいることが分かります。今後は、実験や観察の回数を落とさずに、考察、表現する力の育成に努めていきたいと思っています。

生徒質問紙調査から ①

家で学校の宿題をしていますか

□している □どちらかといえば、している □どちらかといえば、していない ■全くしていない ■その他・無回答

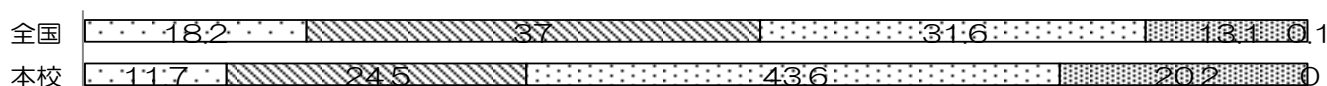


★「家で学校の宿題をしていますか」という問いには「している」もしくは「どちらかといえば、している」という回答が全国平均の回答を下回っています。家庭学習が習慣化されることで、基礎学力が定着すると考えています。「宿題は必ず家で行う」習慣をつけられるようにすることが大切です。

生徒質問紙調査から ②

家で、学校の授業の予習・復習をしていますか

□している □どちらかといえば、している □どちらかといえば、していない
■全くしていない ■その他・無回答



★前述の「家で学校の宿題はしていますか」と同様に、この項目についても肯定的な意見が全国よりも下回る結果となっています。家庭での学習は授業で学習したことを落ち着いて整理する絶好の機会です。また、予習・復習をすることで新たな疑問や関心ごとにも出てきます。まずは少しずつでも時間をとって家庭学習を行う機会を作りましょう。

全体を通した本校の成果と課題

本校では、基礎的・基本的な学力の大幅な向上と豊かな感性・情感・知恵を育むことを目標として、日々の授業を大切にすることを基本に、週末課題・確認テスト、朝読書、定期テスト前学習会・夏季休暇中学学習会・土曜学習会の実施、校下2小学校との学習状況の情報の共有や、交流などをすすめています。その結果、3教科とも全国平均は下回っているものの、項目ごとに見ていくと全国平均を上回っている項目もあります。

生徒質問紙調査では、「家で、学校の宿題をしていますか」や「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という問いに対して全国平均を下回っています。そのことから、今年度も後半に入っていきますが、上記で示した取組が生徒たちの中に意識づけられるように努めてまいりたいと思っています。

また、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問では肯定的な回答が多いのも特徴として見られました。一方、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問については消極的な傾向が見られました。そのことから、将来の夢や目標に向けて計画立てて物事が進められる力の育成が必要であると考えます。

保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると、学習確認プログラムの結果も含め、これまでの調査と比べて、学力は徐々に伸びてきており、生徒質問紙調査の結果も改善の方向にあり、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。今後も引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

